

市内3高校の生徒会長らが開幕を宣言したセレモニー(上)、キレのあるダンスパフォーマンスを披露して会場を沸かせた玉野高ダンス部(下)も宇野港シーサイドパーク



び。 <https://www.ko-be.jp/> から申し込

東京都から夫婦で訪れ、豊島から直島への移動中に立ち寄った会社員荻野目純一さん(37)は「自然の中にある島のアートもいいが、商店街の展示も港町の歴史を感じられて面白い」と興味津々だった。島々から帰ってくる人たちにも楽しんでもらおうと、宇野港会場の作品は午後7時まで鑑賞できる。受け付けなどに当たるボランティアサポーター・こえび隊は不足気味。希望者は公式ホームページ(<https://www.ko-be.jp/>)から申し込む。

瀬戸内国際芸術祭 Setouchi Triennale 2022

高校生や子どもも活躍

14日開幕した現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2022」。宇野港会場は16日にオープニングイベントがあり、市内の高校生や子どもたちが活躍した。築港商店街には新作3点もお目見えし、美術ファンらを楽しませている。(松山定道、矢吹喜一朗)

宇野港シーサイドパークで開かれた式典では、市内3高校の生徒会長らが「瀬戸内海が希望の海となることを目指す」と高らかに開幕を宣言。情景描写がアニスト山地真美さん(35)＝瀬戸内市＝が海ごみから作られたシボル作品「宇野のチヌ」＝宇野コチヌ＝がモチーフの新曲3曲などを披露した。子どもたちも廃材から手作りした楽器で参加。宇野小3年松本桂馬君(9)は「家でも練習するように」赤い家は

習してきたので、たくさんの人に見てもらえて楽しかった」と笑顔で話した。高校生は吹奏楽、箏曲、ダンス、軽音楽など各部が多彩なステージを繰り広げ、放送部も司会進行などの大役を果たした。前回、屋内作品のなかった宇野港会場だが、今回は築港商店街の中に新作3点が点在する。路地の奥で家の窓が明滅して通る人

築港商店街 新作3点好評



通信を求む」など、街掘り起こすような作品の歴史をアートとしてがそろうた。窓が明滅してモールス信号を送るなど何かを伝えようとしているような新作「赤い家は通信を求む」(中奥)を路地を通して目指す人たち＝築港商店街